

進化論が言っている通り唯一生きることができるのは変化できるものである。今憲法改正が必要である。と主張されておられます。しかし、ダーウィンは晩年に進化論は誤りで、聖書の神の天地創造を認めました。だから、進化論が真理でないのです。それをあだかも真理のように決めつけて、唯一生き残ることができるのは変化できる者である。ゆえに憲法改正を主張しています。進化論と憲法改正が変化する者が生き残れるという仮定に基づいて、憲法改正を進めるのは間違いです。今の憲法を維持することがどうして生き残れないというのですか。軍隊をもたない。他国に軍を派遣しない。兵器を作らない。それより、先に相手の兵器を攻撃し、海外に軍隊を派遣し、兵器を造りことで生き残れる保証があるのでしょうか。ある面では変化に対応できるひとは生き残れる場合もあると思います。しかし、そのために対応できない人が、いや忠実にどのような変化があっても、自分の犠牲にして忠実に使命を全うしている人によって変化をした人が助けられたのです。先の大戦にしても出たところ勝負で、兵士の手当でも考えず、海外に軍を派遣した一部の変化の対応した無謀な指導者でした。しかし、お国のために無謀であるとわかっていても変化せず使命を全うして殉死した多くの人々によって今の私たちが幸福な生活をさせていただいているのです。人間はそれぞれ価値観が違います。これは、人間の体のように微妙に各部が組み合わせられ、調和して、活動しているようなものです。しかし、それは体の生命を維持し活動するためなのです。各部分がそれぞれ勝手に動いていたなら内部分裂をしてしまいます。社会の営みにおいても進化論では変化に対応する人が生き残れるかもしれませんが、それで半分以上の人が第9条を守るようにと変化を反対しているのですから進化論云々でなく多様性のある言わば体のように有機的に連なっている社会にであり、国家であり、地経であり宇宙であるのですから、だれもが、体のように互いに連なり、助け合い、調和していかなければ、体が維持できないように、社会も国家も宇宙もすべてが進化どころか滅びてしまうようになります。